

由利公正

とは？



『由利公正伝』1916年

藩政改革の
主要メンバー

福井藩は藩主松平春嶽のもと、有能な人材を登用、財政再建や軍制・教育の改革、殖産興業など積極的な改革をすすめ、由利は、その改革の**主要メンバー**でした。

財政・民政
をリード

1854～58年（安政1～5）ごろ
銃砲や火薬などの武器製造を担当。

1858～63年（安政5～文久3）ごろ
将軍継嗣問題で敗れた春嶽が隠居謹慎となり、藩の改革方針は軍事優先から殖産興業策へと転換。

横井小楠の強い影響のもと、由利も**特産物の生産・販売**に取り組み、春嶽が幕府の政事総裁職に就任すると御奉行兼郡奉行として財政・民政をリードしました。

失脚・蟄居

1863～67年（文久3～慶応3）ごろ
小楠や由利らは、春嶽の政事総裁職辞任により後退した京都での勢力挽回をはかるため、挙藩上洛を計画。しかし藩論は割れ、計画を進めた改革派は処罰され、由利は**蟄居**の身となりました。